

ふじあさみ

富士山大沢崩れで小規模な土石流を確認

平成21年6月21日(日) 9時頃 土石流の様子



平成21年6月20日(土) 6時頃
土石流発生前



平成21年6月21日(日) 13時頃
土石流発生後



平成21年6月21日(日) 午前9時頃、富士山大沢崩れにおいて小規模な土石流が発生しました。

当日は、御中道雨量観測所（標高2,350m）で平成21年6月21日(日) 0時の降り始めから13時までに総雨量80mm、ピーク時には同8時から9時までの1時間で17mmの雨量がありました。

土石流は、富士山大沢川の大滝地点（標高約1,700m）に富士砂防事務所が設置しているワイヤーセンサーにより9時19分に検知されました。土石流の一部が現在施工中のスクリーンブロック工（標高約2,200m）で捕捉され、その様子がカメラで記録されました。

今回の土石流は大沢扇状地（標高900mより下流）まで達した様子は見られませんでした。富士砂防事務所では、引き続き監視を行い、土石流災害防止に努めてまいります。

建設ICT（情報化施工）を富士山凡夫沈砂地工事で活用

近年、コンピュータやインターネットをはじめとする、情報通信技術（Information and Communication Technology）が急速に発達していますが、中部地方整備局でもこの技術を工事施工の現場で活用する取組を行っています。富士砂防事務所では、「富士山凡夫沈砂地工事」で、建設ICTの一部であるマシンガイダンス技術を活用して土砂の掘削作業を行っています。



バックホウの操作者は、上記画面を車内で確認しながら掘削作業を実施

マシンガイダンス技術とは、バックホウにGNSS（GPS）と角度センサを取付け、バックホウ本体と掘削バケット（ショベル部）の位置と高さの情報を取得して、あらかじめシステムに入力した設計データ（図面）と位置の違いを計算し、画面上でバックホウの操作者に情報を知らせる技術です。

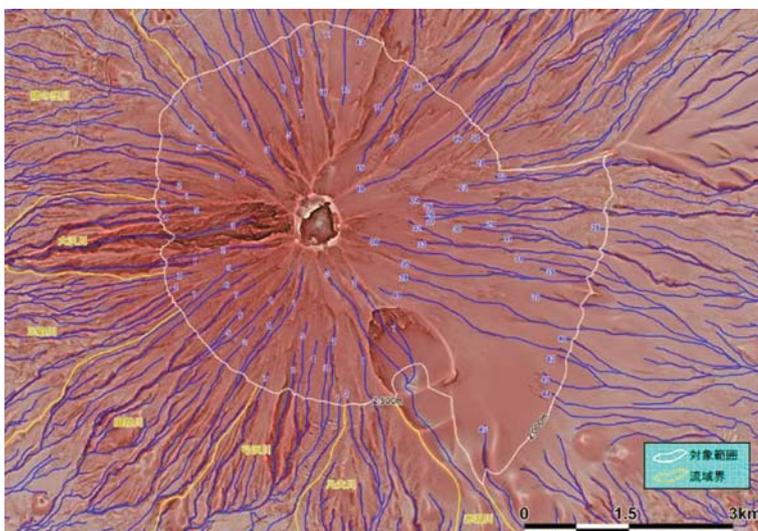
この技術を導入することにより、工事を行う前に行っていた測量（丁張作業）の一部を行う必要がなくなるなど、施工の効率化が図られます。

富士山八百八沢は、八十三沢？ スラッシュ雪崩が流下するおそれのある沢の数？

富士山では、積雪があるところに急激な気温の上昇やまとまった雨が降った場合に、スラッシュ雪崩*が発生する可能性が高くなります。

富士砂防では、平成19年3月25日に発生したスラッシュ雪崩による被害を契機にスラッシュ雪崩に関する調査を行ってきましたが、今回富士山全周を対象にスラッシュ雪崩が流下すると想定される沢について調査検討を行いました。

富士山全周での航空レーザー測量の成果から、過去にスラッシュ雪崩が発生したことがある標高2,000m～2,500m付近で、沢の形状を示している所を調査したところ、83カ所が確認され富士山全周でスラッシュ雪崩が流下する可能性があることがわかりました。



※スラッシュ雪崩とは？

富士山周辺で発生するスラッシュ雪崩は、雪代（ゆきしろ）とも呼ばれ、大量の水分を含んだ雪が流動する現象です。流下の途中で土砂を巻き込みながら土石流となり、また下流域への到達距離が非常に長くなることもあるため、古くから恐れられています。



由比地すべり対策事業の工事進捗状況

平成20年3月より施工している工事用道路2号線工事のうち、由比側の7月末における進捗状況です。工事は、舗装やガードレールを設置し、9月中旬に完成を予定しています。完成後は、斜面上部の対策工事用道路として活用します。



興津側より望む



由比側より望む



地すべり防止区域

今回完成予定箇所

興津

由比

東名高速道路

国道1号

JR東海道本線

富士山大沢川で直轄砂防事業が着手されてから今年で40年

昭和44年（1969）富士山大沢川で、国による砂防事業が着手されました。今年は着手から40周年となり、これまでの砂防事業が歩んできた歴史を4回にわけて紹介します。

昭和42年（1967）5月、政府与党連絡会議における、「最近の富士山は大沢崩れが激しく、その美しい姿が変わりつつある」との指摘がきっかけとなって、参議院予算委員会でもこの問題が取り上げられました。国土交通省（元建設省）は昭和42年（1967）6月に閣議の了解をとり、学識経験者からなる「富士山大沢崩れ懇談会」を設置、昭和43年（1968）度から沼津河川国道事務所（元沼津工事事務所）にて直轄砂防調査を実施しました。翌年の昭和44年（1969）度には富士宮砂防出張所が設置され直轄砂防事業に着手し、今年はいよいよ40周年の年となります。



床固工（第7床固工 昭和44年度）

昭和44年度、直轄砂防の工事は、大沢崩れから発生した土石流が流出して下流に土砂災害をもたらさないよう、大沢扇状地で土石流を捕捉するための床固工の整備（第6、第7床固工）から開始されました。翌昭和45年には、富士砂防事務所（元富士砂防工事事務所）が設置され、今日に至っています。

平成21年度 優良工事等表彰式

平成21年7月23日(木)富士砂防事務所において、請負工事の成績等が優秀で顕著な技術者の方々の事務所長表彰式を行いました。(優良技術者表彰)

また、優良工事表彰となった工事について、関係協力会社も当該工事の施工に貢献した企業、専門技術の維持と向上に貢献した企業として事務所長より表彰状又は感謝状を授与しました。
(関係協力会社表彰状又は感謝状授与)



○優良技術者表彰

平成19年度 富士山凡夫沈砂地工工事
井出徳建設株式会社 秋山達志

○関係協力会社技術者表彰

平成20年度 富士山源頭域調査工事
中日本航空株式会社 山内真介

○関係協力会社感謝状

平成20年度 富士山源頭域調査工事
有限会社 秀栄工業

(優良工事表彰として中部地方整備局長より「平成20年度 富士山源頭域調査工事」大旺新洋株式会社 名古屋支店が表彰されており、上記2者はこの関係協力会社です。)

富士山火山砂防計画検討委員会 開催

平成21年3月10日(火)、富士砂防事務所は、富士宮市内で学識経験者と行政担当者により「富士山火山砂防計画検討委員会(通算第8回)」を開催しました。

(仮称) 由比西倉沢斜面防災連絡会開催

平成21年3月27日(金)、富士砂防事務所は、静岡市内で由比地区における災害発生時の情報共有や応急活動等について関係機関との連絡会を開催しました。

建設ICT現場見学会の開催

平成21年6月19日(金)富士砂防事務所は、凡夫沈砂地工事現場において見学会を開催しました。当日は建設業者等約100名の参加があり、新しい技術への関心を深めました。

上記、委員会の詳細については、富士砂防事務所ホームページ「記者発表」をご覧ください。



富士山総合学習及び現地見学会等結果報告



富士砂防事務所では、富士山総合学習や事業への一層の理解を深めていただくため、公共団体等より依頼を受けて、事業についての説明・案内を行っています。

平成21年3月～平成21年7月までに、約1,000名の皆様が富士砂防及び大沢扇状地・大沢崩れを訪れ、砂防事業等について理解を深めていただくことができました。



5月23日 富士根南中学校(富士宮市)



6月26日 上野中学校(富士宮市)



7月2日 (財)家電製品協会

●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せ下さい。

富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験をされた方の情報提供をお願いします。

国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100
TEL 0544-27-5387

担当/調査・品質確保課 永井、辻まで
インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>
E-mail fujisabo@cbr.go.jp

■富士宮砂防出張所
〒418-0103 静岡県富士宮市上井出1321-9
TEL 0544-54-0236

■由比出張所
〒421-3104 静岡県静岡市清水区由比北田110-1
TEL 054-375-5646

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基にしています。

今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合もあります。